



## 令和7年度 学力向上シンポジウムより～その1～

※詳細は、県教委義務教育課のHPをご参照ください!

【講演】多様な子供達の「深い学び」を確かなものに～次期学習指導要領に向けた私たちの思いと検討状況～

文部科学省初等中等教育局教育課程課 学校教育官 岩岡 寛人 氏

### 1 | これまでの歴史と大きな方向性

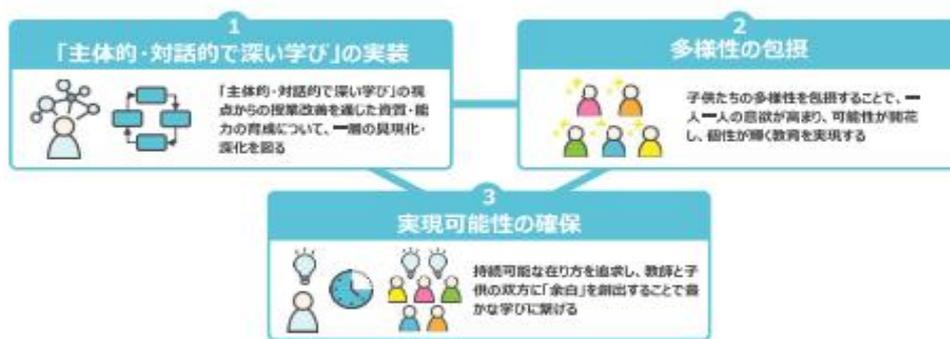
これまで学習指導要領が示してきた内容には、それぞれ正当な意見がある。

例:これからの社会に求められる資質・能力の育成 ⇔ 子供一人一人の多様な実態に応じていく  
ゆとりとした時間の仮名で深く学ぶ時間を確保することで経済格差を防ぐ ⇔ 学校での学習時間を減らしてゆとりを生み出す  
教師がしっかり教える ⇔ 子供が自分で学びとる

【結論】「ゆるやかさか、深さか」ではなく、「深めるためのゆるやかさへ」

### 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む

### 2 | 今の学習指導要領の下での歩み…深いってなんだ?

○社会の変化のスピードが速くなっている…これから求められる資質・能力は?

Society1.0(狩猟社会) → Society2.0(農耕社会) → Society3.0(工業社会) → Society4.0(情報社会) → Society5.0(?)

1万年以上前

1000年前

150年前

2020年

【結論】

・個別知識の集積  
・入試「学力」、学校「学力」  
・入試が終わると抜け落ちてなくなる



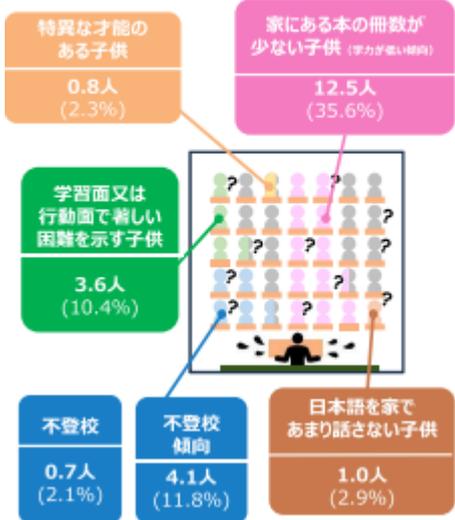
・深い意味理解、概念としての習得  
・現実世界につながる「資質・能力」  
・入試が終わって多くを忘れた後も残り続ける

○現行の学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現の理念のもと、「何ができるようになるかー資質・能力」、「何を学ぶかー学習内容」、「どのように学ぶかー学習過程」の三角形の構造で進めている。

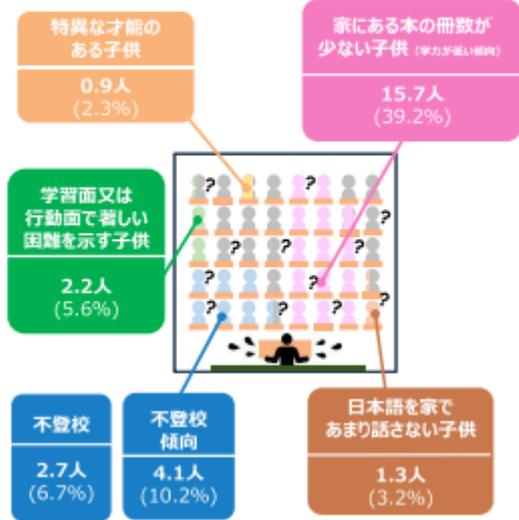
➔主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善について、振り返る必要がある。

○教室の中の多様性:「これまで通り」で誰一人取り残されないは可能か?

**小学校 (35人学級)**



**中学校 (40人学級)**



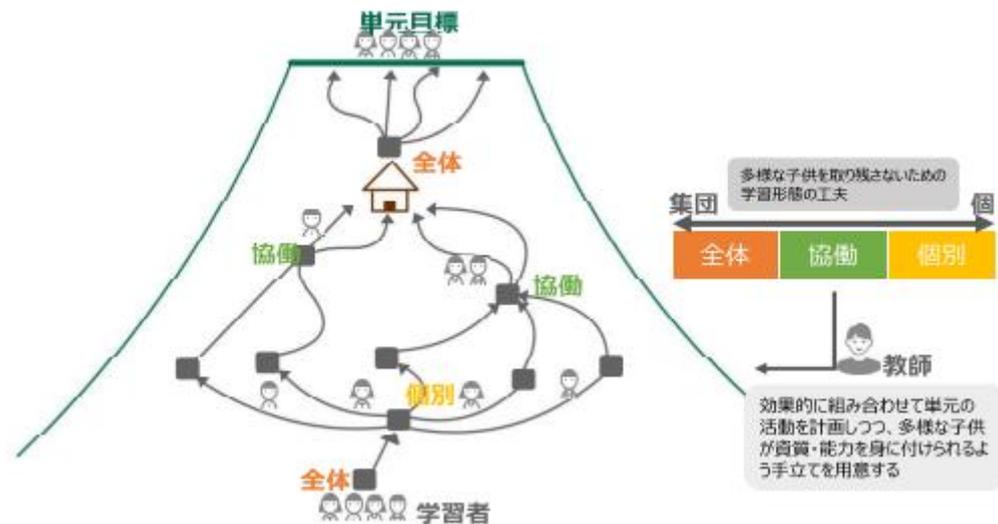
**【ポイント】**  
誰一人取り残さず全ての生徒たちに「主体的・対話的で深い学び」が実現できているかという視点を持つことが大切。

★しかし・・・教員が全ての生徒一人一人に合わせた指導をするのは難しい。  
➡子供が自分で自分の学習を調整できるようにすることが大切。

それを支えるのが「**デジタル学習基盤**」

○これからの授業づくりのポイント

➡本時主義×教師主義の授業づくりから、**単元×学習者主体の授業づくり**へ



- ・個別最適な学び (一人一人学びながら必要に応じて協働する ⇔ 集団の中で個が孤立する恐れもある)
- ・協働的な学び (みんなで学ぶ中で一人一人の学びを深める ⇔ 集団の中で個が埋没する恐れもある)
- ➡それぞれの良さを生かしながら一体的に充実させていくことが重要。

**「学びのデジタルガイド」の活用を! 兵庫県教育委員会 HP にアップされています。**

★令和7年度全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえ、「学びのデジタルガイド」(「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善)に事例を追加しています。

新たに追加された事例の特徴は、以下の3点です。

- ☑全国学力・学習状況調査の結果から見られた課題に対応した指導の工夫
- ☑学びをつなぐ「新たな問い」
- ☑兵庫県公立高等学校入学者選抜学力検査との関連(中学校)

**各校で効果的な活用をぜひ展開してください!**

